

日本原電、合理化で黒字転換 14年3月期

2014/5/21 19:57 | 日本経済新聞 電子版

日本原子力発電が21日発表した2014年3月期の連結決算は、最終損益が16億5500万円の黒字(前の期は5億800万円の赤字)となり、3年ぶりに黒字に転換した。保有する原子力発電所は全て停止中で発電量はゼロだったが、電気の販売契約を結んでいる大手電力から受け取る「基本料金」と人件費削減などの合理化策で利益を確保した。

売上高は前の期比17.5%減の1258億円。売電先の東京電力など5電力から原発の保守費用や人件費として受け取った基本料金が1242億円と大半を占める。

記者会見した浜田康男社長は今期の基本料収入が1100億円程度に減るとの見通しを示し、「非常に苦しい経営状況だ」と述べた。20日に再稼働に向けた安全審査を原子力規制委員会に申請した東海第2原子力発電所(茨城県)については「審査に適切に対応し、安全性、信頼性向上のための対策に取り組む」と話した。

NIKKEI Copyright © 2014 Nikkei Inc. All rights reserved.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。